



From Kobe 5月 (1)

1. 「重複無駄なのか・・・」・「無駄は無駄ならず」 なにかおかしい民主党の事業仕分け

選挙をまじかにひかえ、今 民主党政権が揺らいている。人気回復の目玉は 高速道路の無料化や子供手当の支給に公立高校の学費免除などばら撒き施策と独立法人の事業仕分けだという。

一気に政権が変わったのだから、色々問題があるのは承知とと思っていましたが、あまりにももの迷走ぶりに 果たしてこれで良いのかと考え込んでしまう。

- 国家財政が破綻し、膨大な赤字国債発行の中での 当てのないばら撒き。
「いずれ すべて あなたたちに この付けを戻してもらおうから・・・」といってくれば、この事情がもつとはっきりするのですが・・・
- 高速道路網・新幹線網を張り巡らせて 何で JAL を救わねばならぬのか・・・
海外だって 格安航空が今や主流 ANA だってある。 JAL でなければならぬ理由なし。
必要なのは JAL ではなく 代替手段のない遠隔地・離島などの交通手段の充填確保だろう。
目的と手段が逆転している典型に見える。
金融・自動車に電気メーカーそして JAL 強者ばかりに手厚い施策にはかんぐらざるを得ない
- 政治主導の独立法人の「事業仕分け」のスピード判断も不思議である
国会の使命とダイレクトな事業仕分けの問答無用の即断が本当にマッチングするのだろうか・・・
一方的な付け焼刃勉強の国会議員がトリマキを連れて 事業仕分けと称して、即断のパフォーマンスとしか映らない。 政治家が筋の通った考え方を持つ人たちであった時代ではない。
「連れもて」の時代 「素人療法はケガのもと」
チェック監視し、指摘するのが悪いというのではない。わが意を得たりと即断の判断パフォーマンスをしていることに違和感を覚えている。
公務員・官庁の管理・チェックと行動指示は 会計検査院ではないのか・・・と。
新しい組織でやるなら 前の組織をつぶす。 そうでないなら 前の組織の変革をやり、その組織が職務を遂行で
きるようにするのが筋だ。 自分たちが代れるとする「自信」には「連れもて の おごり」を感じます。
手前味噌の組織を作るのは その組織も以前の組織も両方を弱め、成果が得られないのは数々の事例がそれを証明している。
自分たちの無駄・行動をチェックできない国会議員が、他を排して 「自分たちがすべてだ」というのはまさにパフォーマンスの何者でもなく、むしろ排さねばならない。
「事業仕分け」の項目もベースは裏で官僚が作ったものを組上に上げているとも聞く。
それならば、なおさらである。。。。。
等々

「事業仕分け」の中で 再三「重複」「無駄」「何の役に立つのか・・・」という言葉が 飛び交って、それが「仕分け」の尺度のようであるが、この「仕分けの尺度」には よく考えてみる必要がある。

「無駄は無駄ならず」「瓢箪から駒」「学際を越えた連携」「コミュニケーション・討論が新しい考えを生む」等々
「安全余裕・設計余裕」が未知の危険を防止した事例は数知れず。
逆に「効率」「無駄排除」のもと「余裕」の排除によりもたらされた大事故もまた数知れない。

今の日本を覆うこの「幸福感の共有」のない社会状況の原因は、まさにこの事業仕分けのパフォーマンスの中に垣間見える考え方そのものではないか・・・。「事業仕分け」に喝采をしつつ、仕分け人の言動に首をかしげる原因もその辺りにあるの
だろう。

「二者択一」の一方的な判断は スピード・即決としてそれはそれで意味があるが、その選択を行うものの資質が極めて重要
であり、「事業仕分け」にかかわっている人たちが その器だろうか・・・と。

「器かどうか？」なんて どうやってするのか・・・ということになるが、「仕分け人」は少なくとも「無駄」「重複が悪い」
とする自分の視点と事業仕分けの対象とがマッチしているのかを明らかにすべきであろう。

「政治主導」なんていわれると 益々怪しげに思えてくる。
政治化主導を掲げる弦政権の迷走ぶりと照らし合わせると結論は自明である。

ノーベル賞を受賞した益川さんが TV で 大学入試に関して面白いことを発言されていた。

「入試得点の当落を決める1点差は そんなに厳密なものだろうか・・・
むしろ 8割かいくつかを得点で合格とし、ボーダーの得点に幅を設けて そこに居る人たちを抽選で
合格にする方が理にかなっている

」

正論かもしれぬ。

福祉でよく叫ばれる「セーフティ ネット」「安全余裕」など まさにこの直線の上ののっていると思うのですが、
いかがでしょうか・・・

「心地よい言葉とばら撒きのマジックはもう沢山」

今回のばら撒きを含め、膨大な赤字予算の付けを 誰がどのように払うのか・・・

自治体レベルでは すでに 夕張が・・・そして、ヨーロッパでは ギリシャが・・・

日本の行く道をはやく示し、自衛への道もプログラムしてほしいものである。

2010. 5.1. by Mutsu Nakanishi



草木萌える5月 神戸で 庭で咲く春の花 & 六甲高山植物園の石楠花

1. 日に日に表情を変える自宅の庭に咲く草花



今 一斉に庭に春の花が咲き、周りの山の色と共に、日に日に違った庭の表情を見せています

桜も散ってしまいましたが、今 庭先では一斉に春の花が咲き、日に日に違った庭の表情を見せ、周りの山の色と共に一番生命力を感じる時です。

入口の道沿いで 以前にも紹介した「ツタンカーメンの豆」も実をつけ、毎日採って 食膳にのぼっています。

ツタンカーメンのエンドウ豆は1922年に古代エジプトのツタンカーメン王の墓から出てきた副葬品の中から見つかかり、英国でこの豆の発芽に成功したというえんどう豆の原種。さやの色が濃い褐色になるのが特徴で、ご飯と一緒に炊くとご飯が赤飯のような色になり、美味しくいただける。

数年前にその種(豆)をもらってから、私が育てているわけではありませんが、道行く人たちも毎年楽しみにしてくれている。



2 六甲森林植物園に石楠花を訪ねる 2010. 4. 30.



日に日に樹木の緑が変化してゆく 六甲森林植物園で 2010.4.30.



六甲森林植物園 シャクナゲ園の谷筋を埋めるシャクナゲ 2010. 4. 30.

桜が散って、毎日見る山の緑が日に日に変化してゆく。

この時期 里山ではツツジが満開を迎え、谷筋では石楠花が大輪の花を咲かせる。

芽吹いた樹木では若葉を日に日に成長させている。新緑の緑の中に身をおきたいと石楠花の花と里山の新緑を訪ね、六甲森林植物園を訪ねました。

自宅からは50ccのバイクで約30分。鈴蘭台の街をぬけ、有馬街道国道428号小部峠から西六甲ドライブウェイを東へ少し登ったところである。昨年は石楠花の時期を逸しましたが、今年はどうだろうか・・・とシャクナゲの谷筋に直行。

淡い緑に包まれた森林植物園の木々の緑を楽しみながら、しゃくなげ園と名づけられたシャクナゲの群生地谷にはいると、

谷筋の斜面には緑の葉に包まれて、大輪の淡いピンクの清楚な花「アマシャクナゲ」と「ツクシシャクナゲ」の群生地が次々と現れ、淡いピンクの清楚な花が緑の谷筋を点々と彩っていました。

平日で人も少なく、久しぶりに見る淡い清楚な花にカメラを向けながら、ゆったりと谷筋を巡ることが出来ました。

なお、谷筋上部にあるホソバシャクナゲはまだつぼみが固く花はこれからでした。

久しぶりに見る石楠花の群落に気持ちも晴れ晴れでした。





六甲森林植物園 シャクナゲ園で 2010. 4. 30.

いろいろなシャクナゲのちがい

	アズマシャクナゲ	ツクシシャクナゲ	ホソバシャクナゲ
花	 <p>花は淡紅色の漏斗形で広く開き、先は5裂する。雄しべは10個</p>	 <p>花は淡紅色で直径4~5cm漏斗形で、7裂する。雄しべは14個</p>	 <p>花は紅紫色で直径3~4cm漏斗形で、5裂する。雄しべは10個でやや花冠より短い。</p>
葉	 <p>葉は長楕円状被針形で8~15cm。裏面は灰褐色の軟毛が圧着する。</p>	 <p>葉は倒被針形で長さ8~20cm。裏面に褐色の長い綿毛が密生する。</p>	 <p>葉は狭倒被針形で長さ10~15cm。裏面に褐色の長い軟毛が多い。</p>
分布	本州(岩手・山形県~長野・静岡県)	本州(紀伊半島)・四国・九州	本州(静岡県西部~愛知県東部)
花期	4月中旬~4月下旬	4月下旬~5月上旬	5月上旬~5月中旬



芽吹いた樹木の新緑がすばらしい六甲森林植物園で

2010. 4. 30.